

令和5年度 上尾市立大石小学校 学校評価書

★自己評価の評価基準

A:できている B:どちらかと言えばできている C:どちらかと言えばできていない D:できていない

領域	学校の自己評価				学校関係者評価	
	自己評価の評価基準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言
I 教育目標の具現化・円滑な学校運営	1	学校(学年・学級)運営や学習指導、その他の教育活動の工夫改善に取り組み、学校教育目標(考える子、思いやりのある子、がんばる子)や目指す学校像(信頼あふれる学校)の具現化に向かって、前進している。	A	○学校は、教職員がチームワーク行動を発揮しながら、円滑な学校運営に向かおうとしている。 ○学校は、コロナ禍での教訓を生かした教育課程の工夫改善、教育活動の創意工夫に努めている。	A	【A A A A A A A】 ・とりわけ大きな不具合が感じられないということで評価しました。 ・大規模校としての運営の難しさがある中で教職員が地域の活動などにも協力的であり校内においても工夫をした運営がされていると感じる
	2	教職員それぞれが能力を発揮し、各自の分掌(役割)や各学年が連携・協力して、質の高い学校づくりを目指す体制を構築している。	A	◆大規模校で教職員の意識にも差がみられる。組織としての共通理解をさらに深める必要がある。	A	【A B A A A A A】 ・働き方改革の推進については、社会全体で進めるべきであるが従来の考え方を保護者も変化させなければ解決できない課題と考える。
	3	災害や感染症等の危機に対して、児童の安心安全を確保する対応を適切に行っている。	A		A	【A A A A A A A】

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価基準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
Ⅱ 児童一人一人の学力を伸ばす学習指導の充実	4	教育課程や指導方法を工夫改善し、児童の主体的に学習に取り組む態度を高め、学力の定着に努めている。	・ねらいの明確化と振返りの実施 ・導入5分の工夫、主体的・対話的で深い学びの充実 ・話し合い活動や体験的活動の重視 ・言語活動の重視	A	◆学校は、教員が研修の成果を生かして、一時間一時間の授業を大切に行い、児童がわかる、できる、もっと学びたいと思える授業と、自己有用感を高める学級経営・生徒指導を展開する必要がある。 ◆「家庭であまり読書をしていない」という意見が多い。啓発活動として、休日の読書推奨、読書パスポートの活用を推進する。 ◆学校は、児童のICT活用をさらに推進し、授業を一層魅力あるものにする必要がある。今後はさらに情報モラルの教育を進める必要がある。 ◆学校は、教員がさらに自信をもって、外国語の授業を進行できるように研修していく必要がある。	A	【A A A A A A A】 ・フィンテックの発展に対応する教育であったり、金融機能・投資分野関連の教育の充実が必要になるための外部講師の活用も検討していただきたい。
	5	学習用具の準備ができるように指導を充実させている。	・「大石小学校のきまり」の徹底 ・全教職員の共通理解と実践 ・学習準備の指導	B		【B B A B B B B】	
	6	時間を守る心が育つように指導を充実させている。	・「大石小学校のきまり」の徹底 ・全教職員の共通理解と実践 ・授業開始、終了時刻の厳守	A		【A A A A A A A】	
	7	児童の読書の推進し、読書活動を充実させる。	・読書パスポートの活用 ・図書ボランティアによる環境整備	B		【A B B B B B B】 ・スマートフォンを子供たちが幼少期から使う時代になり情報がすぐに手元に届く時代になっているが読書や文章を書くことによる考える力の大切さを日頃から学習活動の中で指導していただきたい。	
	8	コンピュータを活用する授業を推進し、充実させている。	・デジタル教科書や大型モニタの日常的活用 ・一人一台端末活用の推進 ・プログラミング教育の実施	B		【B B A B B B B】 ・デジタル化の進展はコロナ禍で一段と進んでいるが正しい活用方法を学ぶ機会を提供していると考えます。	
	9	英語に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図れる児童が育つように、外国語教育を充実させている。	・ALTとのコミュニケーションや連携 ・Englishカフェの実施 ・ALTアシスト授業の実施	A		【A B A B A A A】	
	10	少人数指導による授業を積極的に活用し効果的な指導に努めている。	・少人数指導や習熟度別学習、TT指導等の指導体制の工夫	B		【A B B B B B B】	

領域	学校の自己評価				学校関係者評価	
	自己評価の評価基準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言
Ⅲ豊かな心の育成	11	認め合い、支え合う学級づくりのために指導を充実させている。	A	○学校としての考え ◆課題・改善点 ◆学校は、教職員が丁寧な言葉遣いやもくもく清掃を率先垂範し、人権意識の醸成と落ち着きのある生活ができるように、粘り強く取り組んでいく必要がある。 ◆掃除はたてわり班での活動もよいのでは、との意見も出ている。今後、もくもく清掃を達成できるように改善策を講じる必要がある。	A	【A A A A A A A】
	12	正しい言葉をつかう心が育つように指導を充実させている。	B		B	【B B A B B B B】
	13	もくもくと丁寧に掃除をする心が育つように指導を充実させている。	A		A	【A A A A A A A】
Ⅳ体力の向上と健康教育の推進	14	体育授業において、児童が運動に親しみ、技能や体力を向上させる取組を充実させている。	A	○学校は、コロナ禍で減少した運動機会を確保するため、体力向上及び健康教育を推進してきた。	A	【A A A A A A A】
	15	体育授業以外の外遊び等で、児童が運動に親しみ、体力を向上させる取組を充実させている。	B	○学校は、食物アレルギーによる事故防止のために、対象児童の全保護者と管理職を含めた面談の機会を設定している。	B	【A A A B B B B】 ・コロナ禍で運動機会が減少していた中で、「自然とのふれあい」や児童の体力向上に向けた遊びの中での気づきを進めることが大切と考えます。
	16	保健、歯科保健の取組を充実させている。	A	○学校保健委員会では講師を招いたキャッチボール教室を行い、運動の楽しさを広めた。	A	【A A A A A A A】
	17	食に関する指導を充実させ、食物アレルギーによる事故防止にも丁寧に対応している。	A	○「早寝 早起き 朝ごはん」は、啓発も浸透し、保護者の意識も高くなってきている。	A	【A A A A A A A】 ・保健学習と合わせて食料に関する意識を学ぶ機会を増やしていただきたい。
	18	「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さの指導を充実させている。	A		A	【A A A A A A A】

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価基準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
指Ⅴ 導・児童 教育解 相談に 基づく 充実した 生徒	19	あいさつをする心が育つように指導を充実させている。	・放送による呼びかけ ・職員による登校指導 ・PTAによるあいさつ運動	A	◆あいさつについてのアンケートでは、評価は高くなっている。「自分から挨拶」できるよう、引き続き指導していく必要がある。 ○いじめ認知件数が増えている。組織的取組の成果といえる。学校生活アンケートを持ち帰って実施することで、家庭との情報共有ができる。	A	【A A A A A A A】 ・登下校時に地域の人に挨拶ができる児童に会いました低学年の児童でしたが大変嬉しく感じました。
	20	いじめ・不登校・問題行動の早期発見に努め、組織的な対応をするなど必要な対策をとっている。	・「いじめ見逃しゼロ」の取組 ・生活アンケートの活用 ・教育相談(事例研修等)の充実 ・保健室や多目的室の活用	A		A	【A A B A A A A】 ・いじめ問題は、大規模校ならではのご苦労があると思います引き続き事例研究など通じて取り組みを継続してください。 ・今後に期待したいという願いをこめて、評価しました。
図Ⅵ る教職 員の充 実 向上を	21	教職員研修を積極的に推進し、教職員の資質を高め、指導力の向上を図っている。	・学校課題研究(算数科)の推進 ・年次研修や初任者研修を通じた授業力の向上	A	○学校は、算数科における学習指導の研究に取り組み、研究主題を「わかった、できたを実感し、自信を育てる算数科の授業づくり」として、指導力の向上と授業の充実に努めている。	A	【A A A A A A A】
整Ⅶ 備教育 環境の	22	安全・衛生・美化の観点から施設や校舎内外を整頓し、整備を進めている。	・安全学習 ・安全点検 ・避難訓練、防災訓練 ・不審者侵入への対応 ・心肺蘇生法体験学習	A	○学校は、安全点検や校内巡視により、施設等の修繕等に努めている。 ◆下校班について検討。	A	【A A A A A A A】 ・下校時の見守りでは、地域でも人材確保に苦労しています。地区内の企業など連携できるよう自治会としても行政に要望します。
とⅧ の学 連校 携と の保 護 進 者、 地 域	23	学校の方針や取組、児童の様子などが伝わるように積極的に保護者や地域に情報を提供している。	・学校ホームページの充実 ・学校、学年だより等の発行 ・さくら連絡網の活用	A	◆学校は、ホームページ及びさくら連絡網を適切に使い分け、保護者・地域への発信を充実させる必要がある。	A	【A A A A A A A】 ・さくら連絡網の活用により学校で起きていることを地域に発信することも検討したらいかがでしょうか？
	24	コミュニティ・スクールとして学校応援団(保護者や地域住民・関係団体等)の協力を生かして、学校運営や教育活動を充実させている。	・学校運営協議会での熟議 ・PTA(おやじの会含む)、学校応援団等との連携	B	◆学校応援コーディネーターの配置	B	【A B B B B B B】 ・今後に期待したいという願いをこめて、評価しました。